

大学連携による箕面公園の施設デザインを通じた新たなリーディングプロジェクト

堤 公平¹・酒井 毅²

¹大阪府 都市整備部 都市計画室 計画推進課 (〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目)

²大阪府 都市整備部 都市計画室 公園課 (〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目)

本プロジェクトでは、箕面公園内夫婦橋トイレおよび休憩所の老朽化に伴う建て替え計画にあたり、大阪大学の学生から複数案の基本計画を提案してもらい、府民による公開投票で基本計画案の決定を行った。計画案作成時に、精度の高いビジュアル的な提案ジオラマを作成したことに加え、現地調査、利用者ヒアリング、計画デザイン、PR手法の検討などの一連の作業を、大学と行政それぞれの強みを生かして取り組んだ本プロジェクトは地域との新たな合意形成手法を提案したリーディングプロジェクトとなった。

キーワード 大学連携, 行政（府市）連携, 民意の新たな反映手法, 地域活性化

1. はじめに

(1)公園の概要

年間120万人の来園者が訪れる箕面公園は、1898年(明治31年)に開設した83.8haの公園であり、日本の滝百選にも選定されている箕面大瀧や、紅葉など四季を通じて自然豊かな風景を有する府営公園である。

箕面公園では、近年、箕面市と連携した滝道景観整備や、川床をはじめとした自然環境を活かした様々な活性化の取り組みにより、来園者が年々増加傾向にある。しかし、その一方で、開設から相当年数が経ち、施設の老朽化が進んでおり、順次改修が必要な状況である。

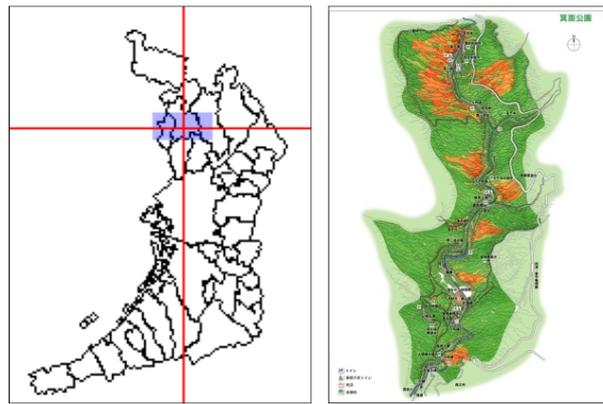


図-1 箕面公園の位置 図-2 箕面公園平面図

表-1 箕面公園の年度別来園者数

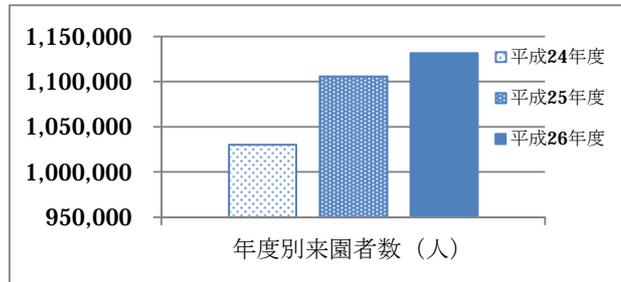


写真-1 箕面公園の活性化の取り組み

(2) 公共工事に係る課題

府営公園全域が「明治の森箕面国定公園」として国定公園に指定されていることや「箕面山」として日本国指定名勝であること等もあり、人工的な公共施設の設置においては、自然環境や地域の特性に応じたデザインが求

められている現状である。

なお、来園者、地域住民、地元市や地域ボランティア等の愛着が強い公園であり、府が行う工事や指定管理者による管理作業においても強い要望が数多く寄せられることから、施設の大規模改修等においては、通常の公共工事と比較して、説明や調整等に労力と時間が必要であることが従前からの課題であった。

(3)課題に向けての対策

上記の課題への対応として、行政が計画案を作成し、地元等の意見を聞く従来のスタイルではなく、計画案作成段階から多数の他主体との連携の中で、幅広く、効果的に意見を吸い上げる仕組みが必要であった。

平成25年度に、箕面公園をテーマにした大阪大学の演習に池田土木事務所が関わったことをきっかけに、同大学からより実践的な課題に取り組みたいとの提案と、箕面公園のトイレ休憩所が改修のタイミングにマッチしたことから「箕面公園便益施設の改修設計に関する覚書」を締結し、設計することとした。



写真-3 箕面公園夫婦橋トイレの現状

b) 箕面公園夫婦橋休憩所

建築面積：17.22 m² 構造：RC造

設置年：1963年

園内で最も古い建築物のひとつである。



写真-4 箕面公園夫婦橋休憩所の現状

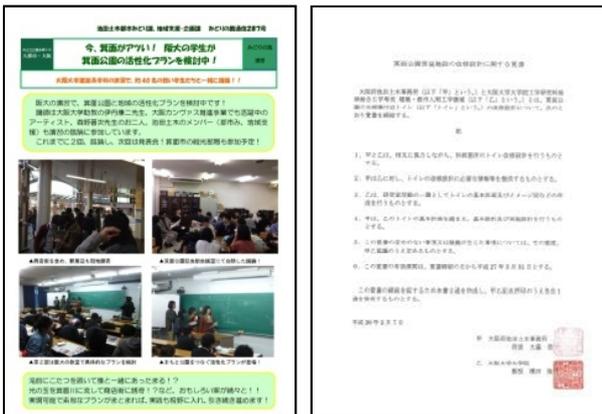


写真-2 阪大演習の状況

図-3 覚書

(3) プロジェクトの経過

a) 第1フェーズ キックオフガイダンス

本プロジェクトへの参加を大阪大学内で呼びかけ、約30名の学生がエントリー。公園概要や現況施設の状況、設計にあたっての前提条件などについて説明。8チームに分かれて案を作成していくことに決定。



写真-5 キックオフガイダンスの様子

2. 「箕面公園プロジェクト2014」について

(1) プロジェクトの概要

本プロジェクトは、箕面公園内夫婦橋トイレ及び休憩所の老朽化に伴う建て替え計画にあたり、箕面市とも協議しながら、大阪大学の学生から複数案の基本設計を提案してもらい、府民による公開投票で基本計画案の決定を行うものである。

(2) 対象施設の概要

今回対象となっている施設の概要は下記である。

a) 箕面公園夫婦橋トイレ

建築面積：8.16 m² 構造：RC造

設置年：1970年

公園内で最も箕面駅最寄のトイレであり、10数段の階段を登らなければ利用できない、男女共用のトイレである。

b) 第2フェーズ 現地踏査、ヒアリング

学生による地域及び公園利用の現状調査を実施し、さらに、イベント時・平常時における公園利用者へのヒアリングや、箕面市、箕面公園指定管理者、公園ボランティアなどの関係者へもヒアリングを実施。



(平常利用時) (イベント時)
写真-6 利用者へのヒアリング

c) 第3フェーズ 建築物のデザイン検討

学生各チームの案について、池田土木事務所や箕面市からの、技術面・法令面を含め、アドバイスをを行い、デザインの具体化を進めた。

d) 第4フェーズ ランドスケープデザイン検討

ランドスケープの観点から、専門家の意見聴取を実施。専門家として、大阪大学の非常勤講師でもある忽那裕樹氏に意見を伺った。



写真-7 デザイン検討の様子

e) 第5フェーズ 1次審査

作品の発表会を池田土木事務所で開催。学生26名より計8案の提案を行い、それぞれのグループからプレゼンテーションを実施。これをもとに、池田土木事務所と箕面市との協議・調整のもと、大阪大学により最終選考案として2案を決定。



写真-8 プレゼンテーションの様子

f) 第6フェーズ 公開投票 (2次審査)

箕面公園梅屋敷休憩所で公開投票を実施。公開投票のPRとして大阪府より報道提供、箕面市の広報へ掲載し、市内に全戸配布(約6万世帯)、また、北摂地域を対象としたコミュニティ誌へ掲載し、北摂地域一帯に配布(17万部)。大阪大学でデザインした公開投票のPRチラシを箕面市役所の協力のもと、阪急箕面駅前及び箕面公園内で配布(2,000部)



写真-9 阪大作成 PR チラシ



写真-10 公開投票の様子

g) 第7フェーズ 最終案の決定

2014年11月7日及び8日の2日間で、投票総数821票(有効投票数819票、無効票数2票)を集め、開票の結果、635票を獲得したA案を最終案として決定した。



写真-11 最終案のパネル



写真-12 最終案の模型

h) 第8フェーズ 実施設計

公開投票で決定した案を基に、池田土木事務所では実施設計を行った。実施設計に当たっては、屋根の形状や外壁の意匠など様々な点において、学生との協議を実施し、公開投票時の模型やパネルを実体化できるよう調整。



写真-13 学生との実施設計協議

c) 学生が製作したサインを設置

トイレ入り口のピクトサインについて、学生がデザインし、製作、現地に設置する予定。

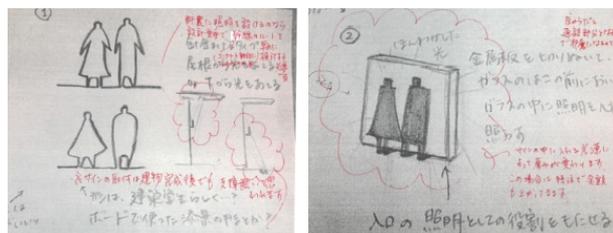


写真-16 学生デザインのサイン案

3. 今後の予定

(1) スケジュール

平成26年度末で実施設計が完了し、建築基準法等に基づく各種申請・手続きも完了した。今後、池田土木事務所です工事発注を行い、箕面公園が最もにぎわう時期である紅葉時期の後、現地着手。平成27年度末には工事竣工し、完成式典を実施する予定。

表-2 今後のスケジュール(案)

項目	平成26年度			平成27年度												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
実施設計																
各種法令協議																
地元等調整																
積算																
準備工																
現地施工																
学生協議	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

(2) 学生との連携

今後、下記のa~dの各段階で学生と連携、協議しながら進めていく。

a) 工事材料の選定

屋根材や化粧型枠、植栽樹木等において、学生の意見を反映すべく、必要に応じて業者との打ち合わせに同席してもらう。

b) 学生がデザインした説明板を設置

今回のプロジェクトの経過や内容を記載した説明板を学生がデザインし、工事の中でトイレの建物内に設置する予定。



写真-15 学生デザイン事業説明板イメージ

d) 竣工後の活性化イベントを実施

学生と連携し、竣工後に今回整備した休憩所周辺を核とした活性化イベントを実施予定。



写真-17 活性化イベントイメージ

4. 効果

(1) 府民ニーズの効果的な把握と効率的な業務の遂行

箕面公園の自然を愛する方々は来園者のみならず、滝道沿いの店舗などの公園関係者、公園施設に対しては、様々な意見を持たれている。このため、行政主導の計画立案は、意見がまとめづらく、通常、説明や調整等に時間と手間のかかる作業となる。

このため、本プロジェクトでは、行政が直接ではなく、学生が来園者や関係者からの意見集約を行うことで、公共建築物の設計を行うという発想のもと、プロジェクトがスタートした。

行政にとっては、大学との連携で関係者の意見集約を行い、効率よく関係者の意見を聞くことができたことは、本取り組みの成果の一つである。

(2) 参加者がWN&WNとなる仕組み

当該公園の観光や景観を重視している箕面市役所とは、取組当初から議論に加わってもらい、本プロジェクトを通じて、これまで以上に連携が強化されたことも評価できる。

本プロジェクトを通じて、市との連携は、本プロジェクトにとどまらず、公園における防災をはじめ多方面の

連携強化につながってきている。箕面市からも観光資源である箕面公園の新しい魅力発信の取組みとして評価していただいている。

(3)効果的なPR手法

箕面公園は、山の公園であるため、施設規模はそれほど大きくないが、箕面大瀧や紅葉などで年間約120万人の来園者でにぎわう公園である。今回の公開投票では、2日間で400人程度を想定していたが、800人を超える投票があり、本公園への関心の高さが伺える。

今回のプロジェクトを通じて、多くの方に、公園の一施設となるが、建築物のコンセプトが事前に伝えることができ、今後の利用にあたっての愛着を高めるためには、非常によいPRになった。

(4)新しい社会参画の機会の提供

今回、大阪大学の建築系の学生に机上の演習ではなく、実際の事例を用いて設計を行うという学生にとっては、非常に大きな経験をしてもらった。彼ら自身も、実際の事例のため、設計に当たっては、真剣に取り組み、それらを通じて経験したことは、学生たちの今後に大きな影響を与えたと思われる。

大阪大学と連携することで、行政主体となりがちな公共施設の設計について、市との連携はもとより、来園者・ボランティア・近隣住民など多様な利用者のニーズを吸い上げることができた。また、今回のプロジェクトの関係主体すべてがWN&WNとなる仕組みで実施できたことで、様々な調整の効率化が図れた。

今後とも、安全・安心に配慮した公園づくりを行いつつ、様々なニーズに対応しながら、公園の利用促進、地域活性化に向けて、様々な主体と連携しながら継続的に取り組んでいきたい。



なお、本論は従前の所属である大阪府都市整備部池田土木事務所都市みどり課の所掌内容をもとにとりまとめたものである。

5. おわりに

今回のプロジェクトの一番の意義は、「地域との新たな合意形成手法の提案」である。